一金弐四〇

一金弐四〇　中邨悦子
一金弐四〇　富取初子
一金弐四〇　内山うめ子
一金弐四〇　瀧浦君子
一金弐四〇　米田悦子
一金弐四〇　西巽みつ子
一金弐四〇　鈴木せい子
一金弐四〇　谷沢菊枝
一金弐四〇　伊東つまる
一金弐四〇　鳥羽
一金弐四〇　小林
一金弐四〇　斎藤

一金弐四〇

一金参四〇　岸上
一金参四〇　幹事田辺理司社中
一金弐四〇　山田玘咲
一金弐四〇　高山玘文
一金弐四〇　瀧沢玘貞
一金弐四〇　吉田玘光
一金弐四〇　牛墳玘富
一金弐四〇　内田玘登美
一金弐四〇　寺井玘杉
一金弐四〇　石田玘民
一金弐四〇　宇田川
一金弐四〇　森　輝子

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

一金五円也
一金五円也
一金五円也
一金参円也
一金弐円也

山本祀文
賀川祀春
内田
山野
栗田栄よ
近藤あいよ

幹事八木理爽社中
安達祀秀
大野祀遊
笹部壽々
塚野祀幸
近藤祀信

一金五円也
一金参円也
一金参円也
一金参円也
一金参円也
一金弐円五十銭也
一金弐円五十銭也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也

幹事鈴木理言社中
松沢祀歌久
山崎祀津
山崎祀清
山本祀昌
山本愛子
和田万尤子
木村豊子
志村静子
奥野祀幸
奥野祀道
青柳仲子
後藤ひで子
浦野祀慶
原田祀光

一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也

堀麻高水稲塚村小銘江上小天
込生橋田畑谷田林木田田屋野
初貞　　留久　貞記代ケ祀祀
子子　　子子子子子貞幾

一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也
一金壱両也

奥宣平相内平平
奥村田野場田野野
板小祈平松沢祀祀初真の祀
倉林原棟おつ鶴誠孝子次治郎
子代治子子

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

柴田琴子
田谷事子
水村菊子
沢村八重子
望月よね子
生田豊吉
河合小八重
山本つる子
白鳥園子
栗本菊子
西服種子
上おいと子

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金弐拾円也
一金弐円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

幹事小川理鶴社中
清修会々員一同
佐野記水
矢野記光
中村記福
渡辺記静
白浜ときゑ
麻野ゑの
野村益江
平河敏江
巣永みよ子
折原房吉

一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金五四〆

吉田理梅
国谷玖良
大滝理銀
中村理鉛
宮本理安
渥美理敬
加藤玖睦
田代雪江子
井筒千代子
泉田壽子
大沢玖富
和田理勇

一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆

板倉玖信
杉野玖建
麦川玖好
高橋玖照
大庭幸子
矢野良子
矢野君子
福島玖隆
横井あき子
山田みち子
近藤はつ子
鈴木もと子

一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分
一金壱四分

竹田うたる
酒井はるこ
林いさよ
大槻八重子
荒川記勢
河津記水
奥村記栄
千原記秀
野島記愛
宮崎記元
鈴木記祥
粉川記冨

伊藤理久
鈴木記常
堀長記千
伊藤記文
中村記珠
間篠理春
太田記禄
松浦記宗

片岡理末

田中記光
児玉記茂
山田記改

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金弐円也

一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也

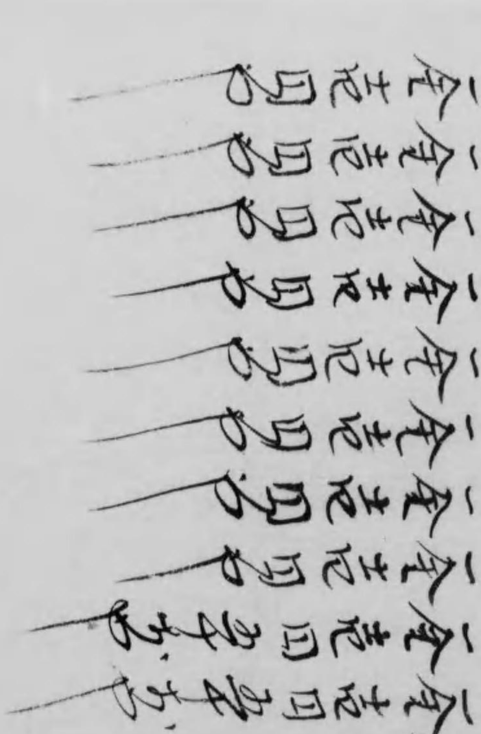
三〇八

高島千代子
山口康子
大場真子
福地千代子

幹事 滝理溪
塚原理倜社中
樋口玘孝
昌谷玘勢
堀川玘世
野村玘保
林玘秀
細谷玘巣

一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

渡辺糸子
古林ふく子
中野重子
宮川保子
稲田
塚本千代子
小川延子
塚原筆子
野村芳子
門間貞子
岩村富貴子
堀川保子



鯖

瀬戸内海別島稿加筆　井田力造
水子　田村川業藤大理　口川
理祝祝祝祝理理祝改　ア尺貞
鯖京文重薄光貞重ニ　了子

三

言神立子中馬原中田星蓮石
岡元味田島沼　山村影見田
祝たつ祝祝祝悦ちち理祝祝
芳子武糸宣菊了了文辰勢華

二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分
三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁
四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁
やう　やう　やう　やう　やう　やう　やう　やう　やう　やう

二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分　二分
三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁　三匁
四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁　四匁
やう　やう　やう　やう　やう　やう　やう　やう　やう　やう

沙弥　社　中　西殿　右　五十
後　原　村　坂　荒
和　早　小　渡　源　山　小　小　原　理　理　死　死
田　川　山　辺　水　本　林　林　理　死　死
せう　たゞ　伊　し　ま　棟　たま　ろう　勝　幸　徳　長
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

松　能　請　友　篠　宮　宮　桃　桃　朝　水　洲　川
井　太　屋　常　　本　本　井　井　倉　本　白
死　死　死　死　ぶ　死　ぶ　死　死　死　死　死　死
詮　袖　世　君　邦　こ　ま　子　菊　寿　釣　住

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金五円也
一金弐円也

平田さだ子
金沢よし子
川口とみ子
川口のぶ子
東山ふみ子
伊野いく子
宮崎とし子
宮崎ちか子
筧しつ子

理事早出理秋社中
坂輪理光
長谷川理晩

一金弐円也
一金弐円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

村井理常
林　理琴
兵頭理艶
竹村理玉
佐橋理栄
矢田理清
内海理夏
堀井理紅
吉沢静秋
山岡清秋
稲山琴秋
木村遊秋

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

武田信秋　二六
吉沢順秋
古田島蘇秋
井上時秋
吉田栄秋
佐々木敏秋
有松常秋
大塩君秋
今井米秋
坂本秋光
青木千代子
稲山くにる

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

堀口かね
中桐静江
藤本のぶ子
中村富美子
相見あさる

幹事
勝元理景社中
武田祝勇
高橋理元
松崎光子
上野好景
岩井夏景
杉本光景　二七

一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金拾朱
一金拾朱
一金五朱
一金五朱
一金五朱
一金参朱

理事佐藤理寶社中

古河美代子
藤村理盛（忠次郎 ちゅうじろう）
島田理栃
車谷理栃
田川理月
竹島理浪

三八

郡津光子
椎手葉景
山口理菊
八木原理長
長嶋照子

一金参朱
一金参朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱

緑川理房
岡野かね子
古城理好
吉川理玉
野村理君
吉岡理代
成田理鐘
久保田亮代之
山内賀陽
今福理富美
勝山睦子
小宮山鶴子

筑紫山田山島永星山日佐久間君子
之丶一子秋葉田田乙瑠璃花子光子山子

板倉定一郎　小笠原清次郎　大橋清次郎　清水言吉　早川千代子　辻田銘子
鹿山祝子　瑠璃山格夜　瑠璃山千代子　瑠璃夜代子

一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円五十銭
一金弐円五十銭

佐藤さた子
宮本秋子
中島理島
糸賀孝子
植村弘子

幹事 井上理蝶社中

市川幸子
大沢住子
風間静江
本田きよ子
押川年子
山田

一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金壱円五十銭
一金壱円五十銭
一金壱円五十銭
一金壱円五十銭
一金壱円
一金壱円
一金壱円

鈴木
田中
森和賀子
岩屋京子
土橋時子
中江
服部房江
大坪ぢきん
紫山ふみ子
横塚みち子
高山
高尾八重子

一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也
一金壱円也

一金五円也
一金参円也
一金参円也
一金参円也
一金参円也
一金参円也

三品
持田ふじよ
宮畑すまよ
内田ふみよ
蒲井由よ
吉野みよよ

幹事高橋理登女社中
清水理壬米
鈴木理君
神代理真寿
林理此
卜部理寿知
赤沢理香

一金参円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也
一金弐円也

大山理鶴
阿部理瑞
戸田理花
大久保理民
佐久木理類
稲恒さと子
平岩理悦
関理要
篠田理真
福岡理部
貴島理花
斎藤理隆

一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱

三三六

山本理幸
格本玖鶴
富木みさを
鈴木玖輝
山瀬せん子
伊藤玖貞
黒瀬理留
田川庄五郎
中川理慶
原田玖益
田中理亦
高山玖八重

一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金五朱
一金参朱
一金弐朱

五百井理梅
山田理菊
山田衣
西川ゑ五郎
小野ちよ子
藤原理梅
豊島子代
井本理花
新井やす

長塩理錠
古屋豊
飯岡ゆとり

一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱

三八

多羅中さ
加藤君子
中村　環
村井章乃
永井子春
武田志づ江
藤本深雪
田中よしこ
長坂富子
柳田理帝
中村たまこ
太田よしこ

丸谷梅子
岩田つるこ
武笠栄子
青木清子
矢作よくこ
鈴江栄子
和田ちよ江
朝倉もとこ
山岡理時
伊藤志代子
大西春子
山田房江子

一金弐円也　山田藤子
一金弐円也　矢崎精江子
一金弐円也　木村兼子

元先 梶川理仙社中

一金五円也　池田理凡
一金参円也　廣川理勝
一金参円也　丹上理長
一金参円也　吉田理玉
一金弐円也　野本理晃
一金壱円也　磯貝まさ子
一金壱円也　石井理通

理事 池上理谷社中

一金参円也　久保木理光
一金参円也　岩上理淙
一金弐円也　神林理真
一金弐円也　森下理富
一金弐円也　小林理芳
一金弐円也　佐田理嵩
一金弐円也　神谷理来
一金弐円也　八尾理晃
一金弐円也　近藤理恵
一金弐円也　小坂理孝
一金弐円也　横山理偲
一金弐円也　山岸ふつ子

一金弐円也　若林ゑき子
一金弐円也　三好花子
一金弐円也　中島琵光
一金壱円五十銭也　五十嵐琵昇
一金壱円五十銭也　藏田さと子
一金壱円也　牛山政子
一金壱円也　佐藤治子
一金壱円也　金子壽恵子
一金壱円也　前橋琵薫
一金壱円也　安村つる子
一金壱円也　萩野はる子
一金壱円也　荒井はな子

一金壱円也　片岡春子
一金壱円也　大貫琵定
一金壱円也　小山琵時
一金壱円也　高須琵鶴
一金壱円也　加藤琵雪
一金壱円也　熊井琵貞
一金壱円也　嶋村琵花代
一金壱円也　吉野琵富
一金壱円也　竹内琵繁
一金壱円也　太田琵富
一金壱円也　武者琵琴
一金壱円也　飯田琵風

一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ
一金壱四ヶ

三百

磯貝殖稲
小池殖改
北沢殖松
内山殖若
野田殖代
原田殖恒
松縄殖関
鳥居栄
金田芳
並木清
増田みつ
松下たつ

大内さよ
山田とめ
細谷きせ
牧山西太郎
石川長
杉本八重
荒井まさ
古川かう
清水殖銀
石田殖安
吉田よし
横田えつ

一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金五四匁
一金五四匁
一金四四匁
一金参四匁
一金参四匁
一金参四匁
一金参四匁

吉田伸子
大倉光子
菊子
沼田らく子

幹事石塚理耀社中

三河家
和島登子
田川孝
菱田猶
安藤真
武市公
鈴木観

一金参四匁
一金参四匁
一金参四匁
一金参四匁
一金参四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁

山野禎
石塚秀
神谷静
倉田翠
内田縫
城戸崎芳
小笠稲
深井愛
大槻清
大槻憲
倉本久
立花勝

一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁

一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁
一金壱拾壱匁

三九 伊勢和州、若宮馬立鬼安松原校
藤田内沢村松蔵川江泉松原校
き紀紀浪七 是紀 是紀 より 幸紀 ゆ 一
八 年 浦 丁 ゆ 一 勅 の 丁 逆 子 丁

三十 自食 能 饭 柏 諸 言 尾 煙 小 飯 言 八
自 下 沢 方 田 方 隈 村 沢 尾 林 島 松
紀 紀 苏 紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀
者 信 印 女 英 楊 清 流 藤 三 界 度

一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金拾四匁

三四

石塚玳堂
上原玳鉉
平山玳琴
伊藤玳兼
川又玳治
河野玳華
秋本玳行
長尾玳竿
野村玳胡
藤本さと子
恩田玳信
池田理德

一金参四匁
一金参四匁
一金参四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金参四匁
一金壱四匁

井村玳律
幹事村尾玳花枝
渡辺玳神
麻生理元
生駒理米
中村玳美
奥田浦子
佐脇玳千
本田玳勇
岡本理福
高木きく子
花井定子

一金壱四匁

一金叁四匁
一金叁四匁
一金叁四匁
一金叁四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金弐四匁
一金壱四匁
一金壱四匁

幹事宇佐川理統社中

増田恵子
小野理貞
降旗理庚
相馬理元
渡谷祀源
神田勝子
花新
金花
白石理兼
佐藤祀繁
福永祀新

一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁
一金壱四匁

後藤忠四郎
後藤いのよ
後藤ふう子
林理春
西村祀昇
時田祀千
浦野繁子
長谷川祀安
川上祀千
川上祀真
豊島理繁
福島理信

一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆

喜多村菊子
大島
新谷理照
本田重子
山田理豊
田野理優美
村瀬理定
大矢光子
松久理文
河村君子
金子栄吉
岡島理繁

一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆

大山理輝
水村竹子
小川
吉田栁子
小沢理祐
岡田理峰
岡田理信
水下留子
岩間十子
波谷理清
内田理長
高木竹三郎

一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金矢四〆
一金参四〆
一金弐四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆

理事加藤理作社中

中村彦いるる
富沢とよきくるる
湯本理先
坂本とくる
石橋安代
矢吉島文枝

前垣理栄
高梨みつ
戸口まさ
長沢ふさ
岩井みつ

一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金壱四〆
一金弐四〆
一金弐四〆

西田ろるる
塙山よねる
村上ゑまる
唯井理滝
唯井理石
國峰きする
椋原このぶる
池谷つるる
加藤ゑまる

西村理常
神尾
雨宮

一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱

栗原てつ子
栗原重太郎
深井竹次郎田
平瀬小芳
金子花子
菅谷
水戸藤五郎
松川楼
江涼家
松本内
山口とくゑ
岡田きく子

一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金壱朱
一金五朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱
一金弐朱

富永
五十嵐駒吉
宮沢京子
吉岡田鶴子
平瀬藤子
富田理和
大松理園
児島理敬
萩原玖恒
小川玖春
伊藤玖栄
平林玖布代

一金三円
一金三円
一金三円
一金三円
一金壱円
一金壱円
一金三円
一金三円
一金三円
一金壱円
一金壱円

武田理照

高橋理雪　二五
榎本理近
石川祀寿
濱中理寿美
臼井理幸
柳瀬祀連
増田理照
熊岡理鉉
谷口きんゑ
加納理高
内田理清

一金三円
一金三円
一金三円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円

幹事山本理良社中

福岡秀野
諏岡祀夏
山本祀幸
石川富久子
伊藤みよゑ
藤井きみゑ
堀田きくゑ
塚越玉恵
佐川祀重
小林精子
中島まさゑ

一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円

岩野福子
玉川きくこ
水谷芳枝
日野慶子
三浦未子
尾池ルん子
富塚ふで子
永井理雄
片山淡子
芦田りん子
早川とし子
宮木理豊

一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円

岡野小新
原せい子
ノ瀬節子
ノ瀬梅子
山本壱代子
池辺やす子
大森理春
山口いよ子
山本寿子
永見理菅
松山理吟
鈴木理翠

一　金壱円　久保田理富
一　金壱円　鈴木理好
一　金壱円　内田理綾
一　金壱円　宇賀治和子
一　金壱円　深谷やす
一　金壱円　原理綠
一　金壱円　池内理千
一　金弐円　草野理隆
一　金壱円　田村理光
一　金壱円　宮嶋いの子
一　金壱円　小瀬波江
一　金五円　山本理泉

一　金壱円　山口理富
一　金壱円　高橋理春
一　金壱円　河鰭理春
一　金壱円　林理光
一　金壱円　千谷理孝
一　金壱円　渡辺理總
一　金壱円　小宮山理松
一　金壱円　白鳥理君
一　金壱円　浅野理清
一　金壱円　大西理千
一　金壱円　高橋理清
一　金壱円　大矢理照

一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円

山田理高
石川理千
山本理國
葛岡理信
石田理花
吉田理花
大沢理澤
中島理清
関口理雪
和泉理澄
小須田理銀
岩井文子

一金壱円

一金参円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円
一金弐円

幹事小森理公社中

坂田千代子
渡辺理千
町田理南
笠井理貞
平野理花
宮服理柱
町田理歌
坂本理彩
桜井理久
石田理淑
福田理汀

一金三円
一金三円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円

竹田理春　竹村理康　松本理陽　岡田理蘭　岡田理光　服部理銀　田部理浪　古山理柱　姉海理原　鳥　中重　豊島理操　塚間理秀

二五八

一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円
一金壱円

柴田理盛　清水理鉦　西村理清　大宮理改　鶴見理澄

以上

大正九年六月

七月例会

一課題　実物対照、傳書講演ハ木村理事事故欠席ノ為ノ休講

本間幹事建碑追善会ノ決算書ヲ書写シテ掲示ヲナシ池上理事之ニヨリテ報告ヲナシ散会ス

定書改正

定

一雅名及心得之巻　金七円
一初伝　金拾弐円
一中伝　金拾五円
一斎号（家元系譜を添ふ）　金拾弐円
一奥伝　金貳拾円
一皆伝　金貳拾円
一家元師範（於飛生試験を行ふ）　金参拾円

一家元師範代（口訣授与を行ふ）　金四拾円
一家元会頭　金七拾円

以上

右者家元三家協議之上相定候也

大正九庚申年七月

古流家元　松盛斎山本理吟
同　松応斎千羽理君
日本古流家元　松藤斎池田理英

家元三家重役

墓条

墓碑修理建碑追善会執行ニ伴ヒ家元ハ此ノ月ヨリ一朋ロ代
表ニシテ月々浄念寺ヘ参詣スルコトトナリシヨリ参詣セラレ墓前ニ香花
ヲ供シ更ニ碑前ニ稽首セラル。
大正九年七月

八月例会

大正八年八月発表ノ休暇期中ニ在ルヲ以テ本年以後八月例会
ハ休会トスル旨前月例会席ニ発表セラレ即チ休会。

代参

家元郷里金沢ヘ旅行不在ナルヲ以テ水村理事菩提所浄念寺
ヘ代参ス。時ニ八月二十五日。

九月例會

水村理事左記各項ヲ述ベテ講演ニ移ル。
(一)皆様ノ御尽力ニヨリマシテ満足ノ如ク成リマシテ建碑追善ニ関スル収支決算
ハ前回ノ本会ニ於テ池上理事ヨリ御報告ニナッタ様ニ承知致シテ居リマス。実ハ斯
ニモ申上ゲテ置キマシタ如ク記録ニ載セマシテ御目ニカケルタメ目下記シツ
ツアリマシテ未ダ其ノ全部ヲ記録シ終ヘマセンガ多少今日御目ニカケル事ガ出来
ナカッタ様ナ次第デアリマスガ程ナク記録シ尽シマスカラ次会ニハ御覧ニ入レ
ルコトガ出来ルト存ジマス。ソレデ其ノ節記録ニ就イテ御覧下サルヤウ申上ゲ
テ置キマス。元来記録ト申シマスモノハ後ニ備ヘル為メノモノデ御座イマスルカラ極
メテ大切ナモノデ御座イマス。則チ何時如何ナル事ガ有ッタトカ又斯ウ云フ事ガ有ッタト
カ云フ事ヲ知ルニハ是非共記録ニヨラネバナラナイノハ当然ノ事デ有リマス

彼ノ長イ歴史ヲ持タル花友会ハ如何ガ致シマセウカ花友会創立ノ年ニナ
有餘年ノ間ニハ是非トモ記録セネバナラナイ訳デ無論多クノ人ガ
ガ出来マシタ事ノ通リ花友会ニ関スル記録ハ出来ガ出ル事ニナッテ居ル
デハナイカ花友会住所ノ消息ノ明カニシテ置キナイデアラウ人
尤モ大勢ノ又来ダ創立セラレタ元老方ガ世ヲ去ッテ居ルカラ分リモ改
シマセウガ之ガ五十年百年乃至数百年ノ後トモナラバ夫レコソ花友会
ノ推移消長等ノ消息ヲ知ルノニ一番ノ資料デアラウ
松和会ノ人ハ早ク記録ニ関スル致シマシテ本当ニ私ガ記録ニ関シテ
ハ重要ナル心ヲ以テ記載改正ヲ為ス事ニ致シマシタ
記録ノ会員ニ対シテ目通シヲ願ヒタイノデアラウ而シテ又記録ハ是非ト
モ時折リ覧下サル様致シタイト有ラウ丈ケデ記録ハ其ノ滅失ヲ配慮
デ防ギ出来ルダケ多クノ記録ハ三部ノ作リ方ニ一部ハ家元ノ郷

里デ作ラウト全国図書館ニ一部ハ永久ノ場合ニ備ヘル様
致シマシタ次ニ是ハ中ニ入ル方ノ是非ト致シマシタ
(二)同窓会ノ方々ハ家元ノ墓帳簿録トシ置カネバナラヌ仮カラ師範科ノ卒シ
タル場合ニハ必ズ其ノ方ノ住所氏名商号雅名ヲ届ケテ下サル様
ニ出ル様ニ致シマシタガ中々ニ実行下サル方ガ少イノデ家元ガ其事ノ整理上甚ダ
困ル様ナ次第デアリマスノデ通ノ新ニ発送ヲ要シマシタカラ何ウ
ソ同窓ノ方々ノ住所氏名商号雅名ノ漏レナイ様ニ書ク下サイマシタ様致
ヒ致マス次第デアリマス。

(三)近来先生方ノ貴人ノ会ガ何ト会ヲ作ッタ会ト云フ風ニ盛ンデ有ラッシャルガ之ニ
就テハ八月十九日花友会席上デ何人カ有ラウト其名失念致シマシタガ家
元ハ宜シク留人ノ会ヲ禁ズル様ト云ヒマシタガ山井池田ノ
両家元ト其外ノ重役ノ方ヲモ其ノ席ニ居ラシマシタノデ私ノ断様ニ申シタ

ノアラズシテ則チ近来留人ノ会ガ盛ニナツタノハ誠ニ好ミアリマセンガ
之ガ又非常ニ有害ナモノデアルト私ニモ思ハレマセン。トコロデソノ家元ノ会ヤ花友会ナ
ドハ行ツテモ何ノ益モナイモノデ家元ノ会ヤ花友会ハ出ナイト師匠ニナルコトハ言ハ因ノ断ナ
ニ門下ヲ拘束シ家元ノ会ヤ花友会ヲ無視スルコトハ言ハ因ノ断ナル
ル柳き家元ノ会ハ師範ガ自家研究ノ結果ヲ商ヒトシテ其ノ是非ヲ広
定シ更ニ之ヲ花友会ト言フ家元三家ノ会合ハ梅園ニ持出シテ三家
ノ流一即チ流儀ノ流一ニ成スヲヨシトスル梅園デアルコトハ気ノ付カレヌ
メデタイ限リデアルト申シテモ梅ナ訳ダ問題ハ其保持上ヲナカツタノデハ
ナイカシラ家元ノ意向トシテハ性カシ箇人ノ会ヲ禁ジル意デ
ヨシ仮ヒ之ガ花友会ノ問題トシテ凝議セラレ、梅ニナルデ
有ロウト云フコトガ先ヅ第一ニ私ハ箇人ノ会ヲ全然禁ズベキ迄
ハ含ノ仮申シマセンガ只今申シマシタ様ニ家元ノ会ヤ花友会ハ之ノ

逝者ニ及ブ梅ナ意嘆ニ堪ヘナイ箇人ノ会ハ寧ロ有害ニモナルデアラウトシテ其ノ
発達ニ望ミナイ私ハ断ジテ其存ヲ認メナイデアラウ斯ニ於テ
カ私ハ思フ故ニ梅園ニ島田理鶴先生ヲ思フノデアルコト先生ハ水芸会ト
云フモノヲ作ツテ門下ヲ集メテ研究セラレテ有リマシタガ水芸会ヲ
盛ナラシムル中ハ勢ヒ門下ニ対シテ松応会ヤ花友会ヘノ出席ヲ強ユ
ル訳ニ行カナイカラ仍テ松応会ヤ花友会ヘノ出席ヲ強ユ
ルコトハ仍ウシテモ我ガ水芸会ヲ盛ニシテ流儀ノ長足ヲ
図ルコトハ出来ナイ水芸会ヲ盛ニシテ一層ノ木
芸会ヲ解散シテ門下ヲ大ニ多ク松応会ヤ花友会ヘ出席セシム
ル様ニ仕向ケテ有ル迄ハ水芸会ヲ自分ノ会ヲ解散セシムノハ有
リマセヌ而シテ松応会ヤ花友会ノ如キ努力セシムノデ有リマスガ斯
ノ様ニ精神ノ現ハレテアル又ハ大イニ
然ラバ一美ヲナスト信ジテ世ノ為ニ犠牲ヲ斯道

繁茂甚敷 埒しまた思ハんこゝアアラユス何ウシ和りに左中世ヘ
マシタ 仮ヨ誤解アラウシツヨ門下ハ勿論先生ヲ初メ研究
結果トドウシ松応今ヤ花支今ハ逆ニ不都合ト云イデ
アラユス。云々

(四)流ハ五ツ書ノ生ンノ養葉ノ次ヘ入レ葉ノ幅ノ広イモノ捨ヒマシ
ウ之ヲ丸ク輪ニ致シマシテ其ノ根元ノ方ヲ葉ニマヤ糸ナドデ括リマ
シテ其中ヘ次々ト入レユスンガ他流デハ大相之ヲ批難シテ居ト都
合悪シデ居ユスンガ之ハ何ウシテ改ナタイト思フノデアリユス
我ガ流ニ於キマシテハ必ズ糸ヲ葉ニマヤ以テ括レヨト元々教
ヘマシタモノデハナクテ便宜上ノ教デアツタノガ段々ト伝ノ時頃ヨ
リ之ハ絶ノ法則ノ如ク誤リ教ヘラレ都ニナツタノデ有ルユヘト
存ゼラレユスン。又葉ニマヤ糸ニシテ括ルト云フコトハ初心ニ於テ

コハ必要デモ有リマセウカ初心ナカンモノニ不必要デアルカニデ有ラユス
其ヲ中ニユスンノハ初心向ニ稽古ニシテ之ヲ自宅ヘ持帰ラユスト
最初ノ養葉ヤ其ノ他ノ者ガ皆一ツニナツテ何ノカ何ウ分ラ
ナクナルコトヲ恐テ形ヲ作ルガ出来ナイタメニ左ノ云フコトノナ
イ都ニトノ注意周到ナル根元ヲ括ツテ教ヘタノガ遂ニ一ノ
法則カノ如ク伝ハルニ至ツタモノデ有ルトイフノデアリユス而モ
ナホ根元ヲ括ルト云フコトハ初心者ニ取ツテ至極便宜デアリ
ユスン斗リデナク初心者ナル者ニ根元ヲ括ツテ生ケルコトガ
甚ダ容易イノト重宝ナ為ニ今日ニ至ツテモ一ト有ゼラレユスン何
シニ致シマシテモ生花ハ流儀ニ術ノデ有リユスンカラ葉ニマヤ
糸ナドデ根元ヲ括ルト云フ都ナ仕方ハ他流ノ批難ヲ待
ツマデモナク之ヲ改ムルノガ当然ノコトト思ヒユスン教ノ地根

ヒ充分研究サレマシテ「ソウ指ハ古流カラ駆逐」シタイト云ヒマス。云々

(五)次ニ中上ゲタイノハ名称ヤ名称ヤ尺ナドノ統一ニ就イテデアリマシテ之ハ八月十九日花友会ノ両家系統カラ出タノデ即時此ノ席ニ中上ゲタイノデアリマシタガ此ノ問題ハ一人一家ノ為ニハナラズ古流ト云フ大キナ舞台ノ問題デアリマシテ其ノ中心組織ノ問題ヲ顔ヒマシテ更ニ先ヅ第一ニ三カノ成立ノ経過カラ始メテ流ノ長サ真ノ長サノ何分ノ何トカ受ノ長サ流ノ長サノ何ノ程ノ割合ニシテ宜シイカ又流ノ真ノ何ノ辺カラ分岐セシメル受ハ水際ト流ノ分岐点トノ間ノ何ノ辺カラ何ウ云フ割合デ出サネバナラヌカ又真芯ヤ其他ノ副枝ハ何ウ云フ位置ニ在ラシメネバナラヌカ又是ハ真芯ガ之ハ真副デアル云フ風ニ名称ガ所謂

ヒ通リニ枝ナノ簡単ナ問題ヲ以テ示シテナリマシテ成ベク早ク其ノ花友会例会ノ席上提出シ徹底ニ致シタイノデアリマシタガ十月ハ大会デ花友会例会休ミデアリマシタカラ十月デモ宜シイノデ時ヲ与ヘマスカラ何ウ一種ノ興味ヲ以テ幕ヲ開ク席上提出シ下サレマスル様ト顔ヒ中スル次第デアリマス所謂通ノ流ニハ家元ガ三家アリマシテ夫ノ名称モ多ク相違ガアリ称呼モ亦更ニ区ツテ居リマシテ一流デ斯ノ様ニ色々ト依ノナイト云フコト流儀ノ面目上甚ダ面白カラザル現象ト申サネバナラヌ其処デ今申述ベマシタ様ニ皆様ニ更ニ席上出シ顔ヒマシテ其ノ集マリマシタ所ニ就テ家元三家ト重役トガ協議致シマシテ而ウシテ統一致シタイト云フ故ナラ人ニ依テ決ル様デアリマス而シテ之ハ誠ニ興味アル問題デアリマスカラ是非

上に皆妙門信頼に依り記しこれりまこと必ず印提出下
さい御切に御イ致す次第デアラウス。云云

一課題 折入花ト花題に就イテ

木村理事時間に餘裕ナケレバトテ大正六年六月十九日
花友会例会に於ト同理事ヨリ発表サレタル同題ノ執筆ニナラシ古流折入心典ヲ讀ンデ会頭相伝物
中同折入花題に就イテ簡單ニ講説ス其ノ朗讀セル
心典 全文次ノ如シ

古流 折入心典

一折入は生花の格に準據せず陰陽三才によりて自
ら其の體を成さしむ
一枝條の称呼は天枝、人枝、地枝等を以て其の名とす
一折入の花體を眞行草の三種に分つ
一立形を眞の體とす
一斜形を行の體とす
一垂形を草の體とす
一眞行草の三體は用器によりて其中の草、行中の眞、
草中の行等其の称呼も亦類す
一世俗称する盛花を折入の変とす其の眞行草の種
別は折入に準ず
一之は各自其の好む所に従ふ

大正六年六月

右講演終ッテ次回ノ課題「菊ニ就イテ」ト発表アリ花友会大会ニシテ十日十吉前開催ト決定セバ十日例会ヲ休会トシ十吉後開催ト決定セバ休会セズト告ゲテ散会。時ニ午後六時半ナリ

十月例会

一課題　菊ニ就テ

(一)木村理事講演ニ先ケ一言スベシトテ丸水盤ニ根水ヲ主ト(ヤボ)シテ下草ニ荊萱四ツ止野菊筍杉外ニ草ヲ入レ小判形水盤ニ猿猴杉ヲ主ト水ニ日々草濱菊寒蘭ヲ下草トシタルヲ指シ之ハ折入ト称スベキモノカ盛花ト名ズベキモノカ将タ何ノ花形ト唱フベキモノカ而シテ此花ハ形ノ上ヨリ座ノ左右何レニ飾ルベキモノカヲ皆撮ノ印判断ニ訴ヘテ之ヲ決定シタイノデ有ルコトヲ而シテ之ハ石塚幹事ガ当席始メテノ試ミデハ有ラズ之ハ花道ノ発達改善ノ上ニモ又研究ノ上ニモ非常ニ有益ニシテ且ツ興味多キ事象ト存ジマスルデ皆様モ御遠慮ナク毎会新シキ試ミヲ次テ当席ヲ埋メマスル様茲ニ御願ヒシテ置ク次第デアリマスト云ヒ会員一同ニ其ノ投票用紙ヲ配布シ尚ホ一言スベキモノアリトテ次ノ如ク演述ス

八月ノ雑誌花道ニ八月ノ花友会例会ヲ紹介セラレタル記事中ニ天下ノ操觚者トシテ又木鐸タル平元君ガ各派ニ特色ノアルヲカ為ニ依テ今ル所以デアルト云ヒ宴ロ歓迎スベキモノデアルト同時ニ之ガ一ノ誇デアラネバナラズ之ヲ統一スルノハ伝書ノ共通セラレタル今日又止ムヲ得ズトト云フ御意見ガ添

（デアリマシタガ同君ハ我ガ古流ノ家元三家ハ何ト古流ト云フ者ト同一デアルカノ如クニ見ラレテ居ルノデハ有ルマイカト思ハレタノデアリマス、同君ノ御意見ハ取キ直シテ家元三家ハ名ハ均シイ古流デアルガ其実三家ノ花型ハ恵トガ真ノ古流デアルト甚ダ明瞭デナイ換言スレバ実ノ所各ニ其ノ特色ニ随ツテ松応斎古流松盛斎古流松藤斎古流ト称スベキモノデアル然ルニ此ノ歓迎スベキ誇トスベキ三家ノ特色ヲ統一ト云フ一ニ依テ古流一箇ノ型ニ当嵌ノ抑トスルノハ三家ノ特色ヲ剥ガ所以デアルガ伝書ノ共通セラレタ今日デハ教ヘカナイト云ヒタノデ有リマス私ハ木鐸ヲ同君ノ御意見ニ敬意ヲ表シマシテ一應御最モ至極ト申シマス然レドモ同君ハ古流成立三家ノ生レ来ル其ノ根本ヲ無視シテ度外ニ置カルヽガヤ其ノ他ノ誤解ヨリ生シタノ御意見デアルト云ヒタイノデ有リマス、若シ古流ニ生花上ノ大則ヤ一ツニ纏ツタ方ノ針ト云フ者ガ無カツタナラバ未レコソ古流デモ何デモナク全ク一人一流ト云フ一ニナツテ松応斎家松盛斎家松藤斎家ノ三家ハ単ニ一人一流者ノ衆合団体ニ外ナラヌト云フ一ニナツテ名称ガハナリ一人流ノ衆合団体ニ外ナラヌガ古流ト云フ藝術其ノ物ノ上ニ有スル価ナ者デハ無イノデアリマス強イテ特色ト云フ点カラ申シマシタナラバ特色ハ百人百色千人千様デアツテ決シテ三家ニ限リ特色ニ非ルモノトノミハ云ハレナイノデ有リマス古流ハ古流ト云フ統一的色彩ノ必要ガアルノハ誰人モ否ムノ出

来ナイ所デアラウコレデ此流一派の色彩下ニ各人各様ニ特色ヲ発揮スベキモノデ無ラネバナラヌ又皆デアリマス、即チ此流一派の色彩下ニ千人千様ニ特色ヲ発揮スベキモノデアル以上其ノ乱レタル花形ヤ名称ヤ其他ヲ流一スルハ大則ヲ定メルコトガ何デモ悪意義デアリマセウ、仮リニ一人流ト致シマシタトモ各人各々其ノ芸術上ニハ矢張リ連絡アリ秩序アル所謂流一派の大道ハ何ウシテモ無クテハナラヌモノデ有ルコト、此ノ一ハ必ズシモ花道ノミニハ限ラナイコトデ如何ナル道ニ於テモ同様デ有ルコトハカラ著モ此流一ト云フモノガ無カリタラバ誠ニ始末ニ困ルコトデ矣クマス、賢明ナル皆様ハ必ズヤ流一ト云フコトノ不必要ヲ以テ主張シテ止マナイカモ有ルマイト存ジマス、ソコデ見マスレバ八月十九日ノ花友会九月七日ノ本会ニ於テ皆様ニ相談申上ゲタ事柄ハ流儀ニ在リマスル私共ト致シマシテハ当然考ヘネバナラヌ又市相談申上ゲネバナラヌ大切ナ事柄デアルコトハ固ヨリノコトデ有ロウカト存ジマス、然ルニ君モ之ヲ不必要ナリトセラルル方ガ有リマシタト致シマシタナラバ夫レハ恐ラク誤解ニ因ルモノデ有ルマイカト存ゼラレマス、但シ不必要ナリトノ明論卓説ガ所々ニアリマスナラバ迂愚ナリ所漏ラシタ顔ヒタイモノデ私謹ンデ拝聴致シマシタ上デ平ニ其ノ如クニ直チニ其ノ意見ニ従フノ吝カナルモノデハ有リマセントカフコトヲ茲ニ申上ゲ置キマス。

周リ所ニ依リマスレバ山本家ニ於テハ二三ノ方ガ猜疑ノ眼カラ横道ニ曲解シ誤解致サレマシテ山本家ニ大イニ反対ヲ声明サレタトカ云フコトデアリマスガ其レガ果シテ周イタ通リデ有リマ

レタナラバ夫レヲ其ノ反対セラレタンダト斯道ノ改善発達カ
向上ハ著ルシクハ少シモ心ヲ措ケズ斯道ノ為メニハ所謂不忠実ナ
ル人デ言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ唯々我レアルヲ知ッテ花道ヤ
流儀ヤ家元ノ事ヲ知ラナイ而シテ斯道ノ改善発達ヲ
沮害スル所謂獅子心中ノ蟲デアリマス又然ウ云ハレテモ恐ラク
返スト言葉ガ無ナロウカト存ジマス然ルニ貴明ナルベキ木鐸
タル平元居士ガ偶ン遇然デハ有リマセウガ其ノ灯提ヲ持タ
レタカ如キ観アルハ斯道ノ為メ甚ダ寒心ニ堪エマセン幸ニモ
松廼爺家一門ハ何方モ貴明ナル斯道熱心忠実ナル人々
ヨリデ有リマシテ松廼家ノ或人ノ如キ事毫モ好ニヒテラシ
ルオノナイノハ斯道ノタメ仲間度至極ノ事デ有リマス保シ
乍ラ之ハ先ヅ此位ニ致シテ置キマシテ本日ノ課題菊ニ

就イテ中上グルコトニ致シマセウ云ヒ結ビ。

（二）課題菊ニ就イテ其故事出典ヨリ應用ニ及ビ秋
菊ト夏菊トニヨリ真ト流ニ用フベキ花ニ差別アル
コトヲ説キ更ニ花ヲ生ズルニ方リテ心頭ヲ啓シシム可
カラザル生花姿勢上ノ大基本並ニ傾斜角度等
ニ就テ黒板ニ図シテ懇々講述スル仮アリ。

（三）終ッテ最初会員ニ配布シアリタル用紙ヲ取集メテ之ヲ用
栗ニ其結果ヲ読上ゲテ『盛花ニテ右雲ノ如ク』ト説多数
ナリト告ゲ茲ニ同散会トナリタルガ池上木村二理事石
塚館水宇佐川木同四幹事松廼爺家ノ將来ニ執
ルベキ方針並ニ斯道ノ発達繁栄策等ニ就イテ意
見ヲ交換シ尚ホ十一月九日ヨリ来日ニ至ル迄郊外市川

新田東華園内ニ生花出陳ノ儀ヲ決シ夜十時連歌花庵ニ会シ、家元ヨリハ夜食ニテ蕎麦ノ饗応アリ。

出陳日時ヲ十月廿日ト決定シ九月末日一行ノ現場視察ノ結果ニヨレリ。

東華園生花出陳

十月七日例会記ニ本項ニヨリ予定ノ如ク十月五日家元池上石塚、飯水宮佐川、水間ノ諸氏各社中ヨリ伴ヒ木村理事亦加ハリテ一行十八名押上京成電車別仕立ニテ市川新田東華園ニ向フ陳列生花大小三十一瓶。席中央ニハ『古流家元』松応斎家生花ト大書シタル掲ゲ又一方ニハ『古流生花』敬授『警世火曜日園内陳列録』ノ掲示ヲナス所ノ予定期間松応斎家一門ノ有志ニヨリテ更ニ空瓶ヲ入レタリ。就中池上理事鈴木幹事始終一貫大ニ努メ木村理事ハ勤務ノ傍ラ同中視巡役ヲ勤ム京成電車乗車券東華園入園券ヲ山本池田吉岡関岩村氏ニ贈ル池田家元以外居合アリテ家元園ニ来園ニテ盛リキ。時既ニ深秋園内ノ菊花花ヒラヲ生色ナシ。乃チ廿九日ヨリテ生陳ヲ撤フ。

十一月例会

一 課題 紅葉物

(一) 木村理事起ツテ本日ノ課題ハ紅葉物ナリシ時間都合ト来ル十九日ノ花友会例会ノ課題ガ本会ト同様紅葉ナルヲ以テ茲ニ紅葉園ニ講演ヲ省キ水仙其他就テ一言スベシトテ水仙ノ生性自然ノ状態ニ就イテ述ベ更ニ教授ノ職ニ在ル者ハ決シテ傳書ノ研究ノ等閑

ニ附スベカラズト其ノ実例ニ拳示シテ講説スル所アリ。納会ノ課題松竹梅ハ者ヲ宜シ。

(二)次ニ九月七日ニモ中六ヶ月有リシ通リ師範以下ノ人々ニ伝書ヲ許サル、場合ニ必ズ其住所氏名ノ下ニ特ニ中六ヶ月トシテ免角行ハシザル御条文ニ於テハ草帳ニ登録モ出来ズ且ツ年末際ニ夫々準備整理ノ上ニ非常ニ差支ヲ生ジツヽアレバ末月ノ納会ニ漏サル師範名以下住所氏名届出ヲ怠ラザルト告ブ。南会ヲ告ブ。(九月例会記ニ見ル)

(三)此日鈴木幹事ヲ講演ニ申ヒラル、卓子掛ヲ寄贈セラル。

東華園生花撤退

生花撤退ノ事生花出陳ノ部ニ既記シタル通リ再録セズ。

入営祝

池上理事令息恒君家元ニ家補佐待遇岩村理事氏息適齢入営ニ決ス依テ祝意ヲ表シ為ノ各金子一封(金五百疋)ヲ贈ル。村理事松応会ヲ代表シテ使者役ヲ勤ム。

十二月納會

維時大正元年霜月二十九日旦月一日

一課題 松竹梅

夜来ノ雲降ヲ止メズ忽チ変ジテ雪ヲ降ラシ正午頃ニ飛雪頻紛積ンデ樹枝ヲ撓ミ寒威冽ル肌膚ニ徹ス時ハ流レテ四時ノ報ズルモ会ル者僅々十三氏ニ過ギズシテ早クモ五時トナル依テ此ノ日ノ課題ヲ休講ス。仍テ当年ノ此ノ初雪ヲ冒シテ来会セルハ池上、柿沢、佐藤。

木村四理事、石塚、斎、高橋、宮佐川、小交、鉛水ノ六幹事及ビ本明理操、岡本理俊、三宅理仟諸氏ヨリ、此日柿沢理事ハ金壱円ノ菓子ヲ石塚幹事ノ焼物皂地丸水盤ヲ寄贈セラル

家元ヨリハ清酒ヲ本会ヨリハ蕎麦ヲ来会者一同ニ饗シ終ツテ散会後役員会ヲ開キ先ヅ理事会ニ於テ幹事ノ改選ヲ行ヒ其ノ通知ヲ発スベキヲトシテ其ノ改選ヲ行フ

再選　石塚理耀　井上理蝶　本間理仁　小川理鶴　小川理香　高橋理登　田辺理司　宮佐川理焼　八木理夾　小森理公　鉛水理亮　岡本理俊　奥村理鶴

新任　西村理常　富田理和　和田理勇　鉛井理政　山本理泉　後藤理勝　日根野理居

候補　石塚理秀　本明理操　小室理真　片岡理末　長塩理鋭　内田理長　佐野理水

右改選ニ終ルヤ役員会ニ移リ十年度ヨリ幹事以上ハ出席ノ有無ニ拘ラズ必ズ例会費ニ徴集スルヿ

会費ノ徴収ハ肩ト徴収方法ハ幹事分担シテ之ヲナスヿ

新年発会ハ例年ニ倣ヒ会費ハ特ニ巻四トスルヿ

大正九年発会式散会後ノ宿題タル新年発会式ノ床飾ヲナストトミ之ヲ賀状ニ記シテ通知スルヿ而シテ具体飾ハ次ノ如シ

床　寿老ミ軸　花ノ梅トミテ変格三具足飾

棚　上巻物　下食籠　地板盆景

(六)二月ノ課題ヲ梅ノ水潜トスルコト
等ノ打合セヲナシ夜十時散会ス池上亦村ノ二理事會計ヲ終リ
柿沢理事本間幹事ト共ニ庖廚ニ辞去ス時ニ十時五十分飛雪
降ヲ止メテ銀光愈々白シ

幹事改選通知發送

幹事改選ニヨリ左記ノ文ヲ端書ニ印刷シ幹事二十名ニ宛テ十二月十
一日附ヲ以テ発送シ了ス

歳亦愈仰多端ノ砌ト奉拝察候陳者本会納会ノ
理事会ニ於テ幹事ノ改選行ハレ候彼次年度ニ
於ケル本会幹事ニ貴下ヲ再選(退任)被致候間此段御
通知申上候

敬具

大三九年十二月　日

(古流家元)松応斎家　松應會(神田末廣町三番地)

尚日念ノ為本会掲示第八ヲ左ニ抄録致候

一、松応会ノ幹事ハ此ノ仁ヲ幹事トシテノ責任ヲ出尽シ三年ヲ信任カラ年
齢ノ長幼ヤ資格ノ高下ニ拘ラズニ理事会デ選任推挙スルデス従テ此選任方針
ニ徹底サセル為メニハ勢ニ陶汰ヲ要ニスルノデ幹事ノ任期ハ三年トシテアリマス

定ト規定須布

家元三家恢識ノ結果左記印刷物ヲ作リ松応会ニ於テハ納会ニ松勝
会ハ池上理事ノ手ヨリ松盛会ハ花文会納会ノ際ニ分配ス

(え)之

一雅名及心得之巻　金七　円
一初　伝　金拾弐円
一中　伝　金拾五円
一齋　号（家元系譜ヲ添ふ）　金拾弐円
一奥　伝　金弐拾円
一皆　伝　金参拾円

以上にて卒業とす尚も進みて師範者たらんと希望し
又は秘訣の修得を望まゝ方は更に次の許と伝書
とを受けらるべし

一家元師範（拾箱型試験を行ふ）　金　円
一家元師範代（口訣問答を行ふ）　金　円
一家元会訣　金　円

二九〇

右有家元三家協議之上相定候也

大正九庚申年霜月

以上

古流家元　松盛斎山本理吟
同　松応斎千羽理君
同　松藤斎池田理英
家元三家重役

規定

一稽古　一週一回トシ
一束修　材料ハ自辯トス
一自宅稽古　金弐円
一出稽古　金弐円五拾銭
金五円以上　悉ク前納トス

二九一

一特別稽古　規定以外

一休暇　自一月一日至同月十五日
　　自七月十五日至八月十五日

一授業料　事故又ハ休養欠席三ヶ月以上ナラザレバ免除セズ▲但シ授業料ハ申受ク▼

一秋季大会　技術ノ巧拙ニ拘ラズ必ズ出席スベキモノトス但シ会費ハ出席欠席ニ拘ラズ五日前ニ納ムベキモノトス

以上

大正九年霜月

古流生花　家元三家

年賀広告ト年賀発送

雑誌花道ニハ前例ニ倣ヒ広告年賀ヲ掲載ス又本会々員ニ対シテハ次ノ年賀端書ヲ発送ス

恭賀新年

大正十年（西暦一九二一年）元旦

古流家元　松応齋千羽理君
松応会幹部
神田区東広町二丁目一番地
電話ミミ外神田来広町下車

追而来る九日午後二時より新年発会式執行候間萬障一排時参会有之候様致度此段得貴意候

当日は御参考に供ふる為め特に伝書中の変格三具足飾り（並に違棚飾り）を新春の床飾りと致し候

御来会の節は左記会費及び福引品の所用意有之度候

○会費　金参円也……

○福引品　何品にても弐拾銭までの品高価品△

当日は前以て準備致すべく候へば御出席の有無七日迄

ヶに必ず申一報願度候但し役員の方は必ず定刻前に御出席の
旁特に申添候

家元会頭以上各通

恭賀新年

大正十年 西暦 元旦

古流家元 松応斎千羽理君

松応会幹部

神田区末広町二十番地
電話 外神田末広町下車

追而来る九日午前九時より新年祭会式執行致度間御案内
名刺御携帯にて御参会有之度極致度比段御案内
旁得貴意候

当日御参考に供する為め特に伝書中の変格三見定飾り
(並造棚飾り)を新春の床飾りと致し度
尚ほ午後二時以後の祭式に列席を希望の方は御別席の際左
記会費及び福引品の御申意は同論七日迄に同会出
席の旨必ず御一報願度候

○会費 金参円也、……

○福引品 何品にても弐拾銭迄の御高等品

家元師範代以下各通

筆者曰、以上ヲ甲号ノ壱冊トナシ別ニ副本弐部ヲ作リ製本シテ上野及び
金沢(加賀)ノ二図書館ヘ送リ以テ原本亡失ノ万一ニ備フ

此ノ副本百七十二頁十行目ハ原本百七十頁（原本ニハ続ク一頁ニ限リ丁数一七〇ト記ス代リニ「百鉄乙号ニツヅク」ノ）ノ末行ニシテ百七十二頁十二行目ハ原本乙号ノ人字ヲ特ニ記シアリ

最初ノ頁二行目ヲ書字ニモ「ヲ」ニ作リ原本乙号ノ第一頁初行ニハ「以下甲号ヲ續ク」ト記セリ

此ノ副本ハ同時ニ三部ヲ謄写シ木村理子嚴密ニ原本ト校合シタル其ノ後ニ於テ正ニ製本成ノ日ニ於テ一部ヲ上野図書館ニ一部ヲ北陸ノ都市金沢図書館ニ寄贈ス仍テ後日原本ノ大難ニ遭ヒテ失ヒタル場合ハカリヲ慮リテ之ヲ用ヒ意ニ資セン為ナリ

大正十年花見月十六日記

誓約書

本誓約書ハ家元三家ノ名ヲ以テ発行スル目録所載ノ傳書、系譜ニ就テ誓約調印スルヿ左ノ如シ但シ著作発行ノ本旨ヲ遂行シ能ハザルニ至リタル時ハ本誓約ハ最初ヨリ存在セザリシ者トシテ反故タルモノトス即チ著者ノ有ニ帰スルモノトス

一、目録所載ノ傳書、系譜ハ之ヲ非賣品トシ家元三家ヨリ各所属門下ニ頒タルモノトス

一、本誓約者ハ目録所載ノ傳書、系譜ニ著作者トシテ所定ノ奥附ヲ付サルモノトス

一、如何ナル事由ヲ以テスルモ本誓約者以上ニ人員ヲ増加スルヿヲ得ザルモノトス

一、本誓約者ハ家元タルト否トニ拘ラズ著作發行ノ本旨ニ戻ルノ所為アル片ハ傳書、系譜ノ奥附ヨリ其ノ氏名ヲ削ラルヽモノトス但シ之ニ対シテハ何等ノ苦情要求等ヲナシ得ザルモノトス

一、前項ノ事由ニヨリテ氏名ノ削除アリタル片ハ其ノ所属家元ニ於テ人選補欠スルヿヲ妨ゲザルモノトス但シ人選ニ預リタル者ハ其ノ時ヨリ本誓約書ニ依ルベキ

一、本誓約者ハ同意ナクシテ才三者ヲシテ後継者タラシメ又ハ権利ノ譲渡ヲナスヲ得ザルモノトス但シ同意ニヨリテ得タル後継者又ハ譲受者ハ前項但書ニヨルベキモノトス

本誓約書ハ六通ヲ作製シ家元三家他三名ニ於テ各壱通ヲ所持スルモノトス

大正八年四月拾五日（大正五年五月壱日誓約調印済ノ仮人員増加ノ為メ更改ス）

目録

一古流生花師範相傳抄
一古流生花師範代相傳抄
一古流生花會頭相傳抄
一古流生花心得抄
一古流生花京元系譜
以上

一古流生花初傳口訣抄
一古流生花中傳口訣抄
一古流生花奥傳口訣抄
一古流生花皆傳口訣抄

若木村勉

誓約者　井上[illegible]
誓約者　山本[illegible]
誓約者　池田[illegible]
誓約者　千羽成
誓約者　[illegible]川[illegible]
誓約者　[illegible]
誓約者　寺住峰三郎
誓約者　小川[illegible]
誓約者　高橋國太郎
誓約者　三上[illegible]

誓約者　相馬國[illegible]郎
誓約者　松井[illegible]
誓約者　[illegible]
誓約者　天野[illegible]
誓約者　[illegible]
誓約者　[illegible]
誓約者　[illegible]
誓約者　佐藤[illegible]次郎
誓約者　鈴木[illegible]次郎
誓約者　石川[illegible]

契約者 平生手代
契約者 吉岡新八
契約者 早出吉治郎
契約者 藤元領子
契約者 梶川小藤
契約者 松尾兵三
契約者 坂橋不苍
契約者 樋口養式
契約者 青柳
山静子
契約者 加藤米代
契約者 山本芳
契約者 堀子

契約者 形蔵之助
契約者 小泉子
契約者 石塚
契約者
契約者 森 芳子
契約者 遠藤作平
契約者 黒田登
契約者 田口
契約者 高橋登女

契約者 小峰
契約者 河
契約者 早
契約者 今田辰子
契約者 横田直七
契約者 荒尾石
契約者 小川もん
契約者 佐三きよ
契約者 池田とく
契約者 岩上深
契約者 林

契約者 関藤
契約者 松村きく
契約者 新山一清
契約者 篠田勘太郎
契約者 成海銀次郎
契約者 大沢富子
契約者 塩田孝子
契約者 木村弥七
契約者 戸川正得
契約者 小林光

契約者 阿部市郎兵衛 [illegible] 横井弥七郎 [illegible]

契約者 [illegible] 契約者 池上[illegible]

以上

11
477

終